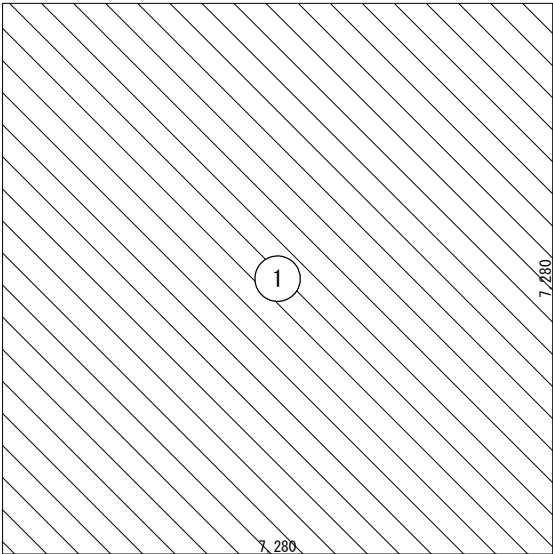
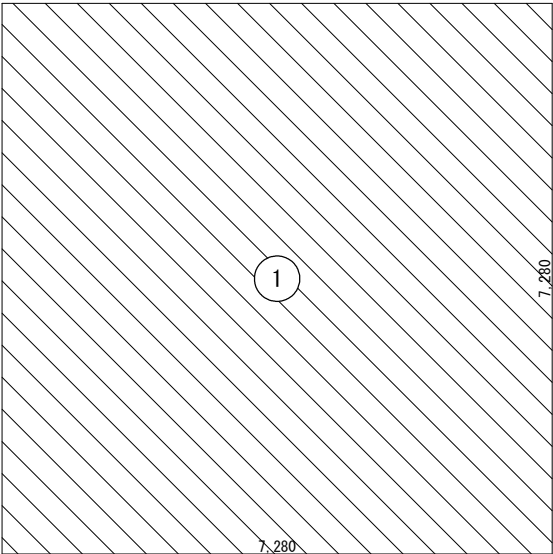


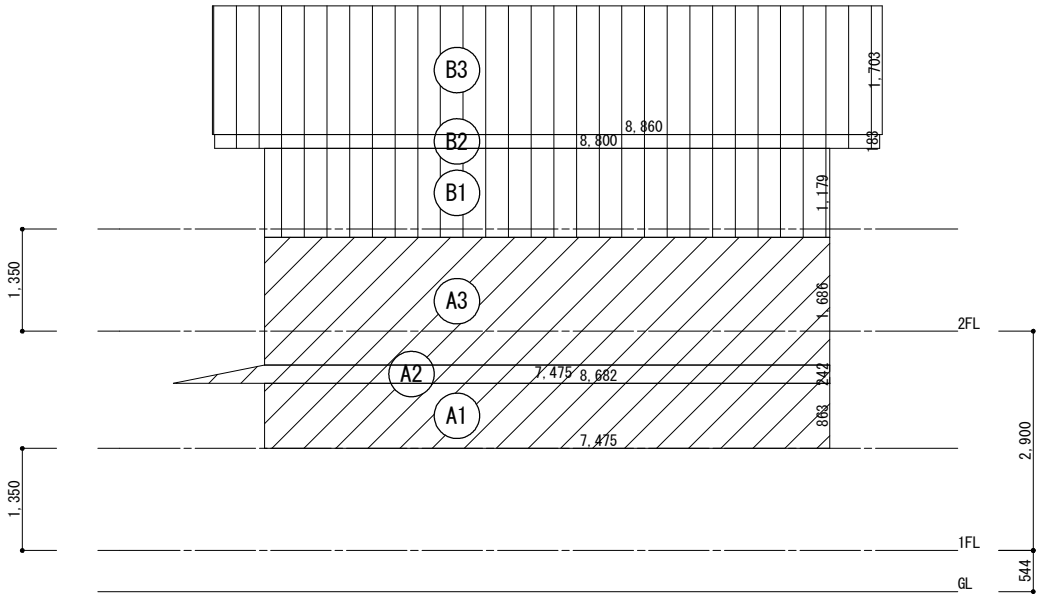
建物諸元		
建物名称	スタイルデザイン（土間）新築工事（片流）	
平面単位モジュール		910.0
階数	2	
屋根	重い屋根	
多雪区域	外	
最深積雪量 (m)	1.00	
地震地域係数 Z	1.0	
地域基準風速 Vo (m/s)	30	
基準法の床面積 m ²		
	1 階	53.00
	2 階	53.00
延床面積 m ²	106.00	
性能表示の壁量計算用床面積 m ²		
	1 階	53.00
	2 階	53.00
屋根勾配	0.05	
立面上の屋根厚さ	180.0	
階高 mm		
	1 階	2900.0
	2 階	2691.0
軸組階高 mm		
	1 階	2900.0
	2 階	2730.0
横架材間内法寸法 mm		
	1 階	2715.0
	2 階	2850.0
天井高 mm		
	1 階	2400.0
	2 階	2400.0
開口高 mm		
	掃出・ドア	2000.0
	腰高窓 (大)	1400.0
	腰高窓 (中)	1000.0
	小窓	600.0
目標等級		
耐震等級 (倒壊防止・損傷防止)	2	
耐風等級	1	
耐積雪等級	—	



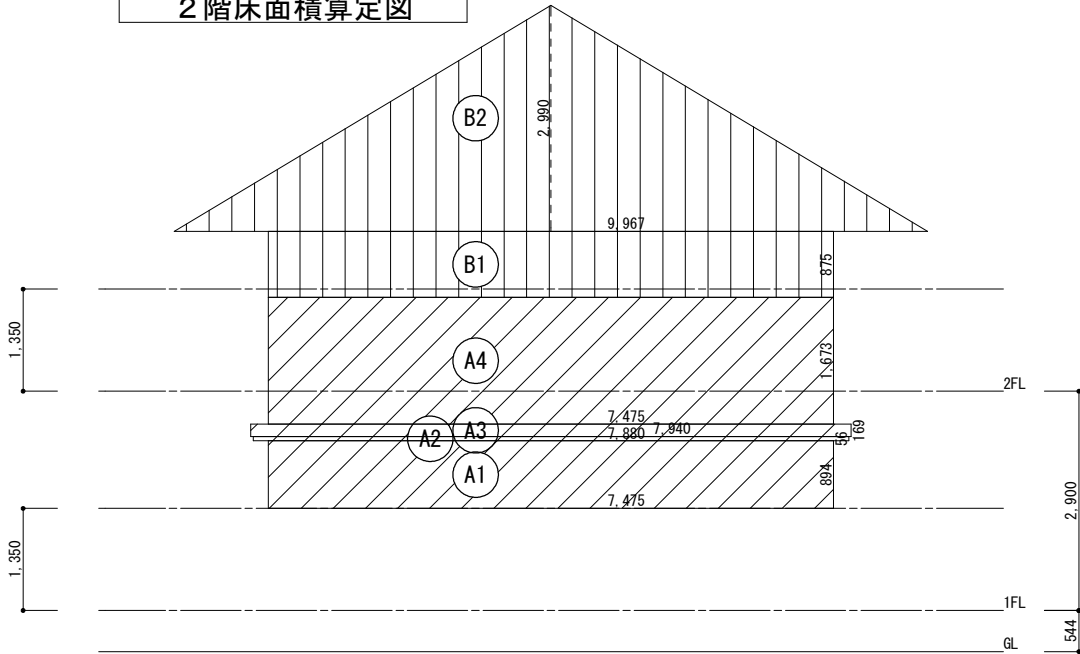
1 階床面積算定図



2 階床面積算定図



X 方向 (東面) 見付面積算定図

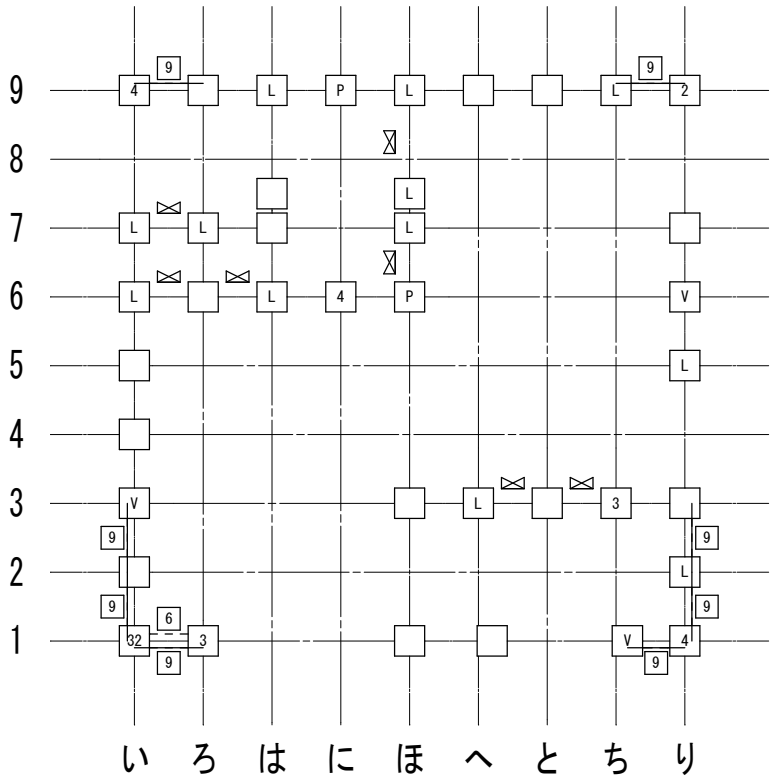


Y 方向 (南面) 見付面積算定図

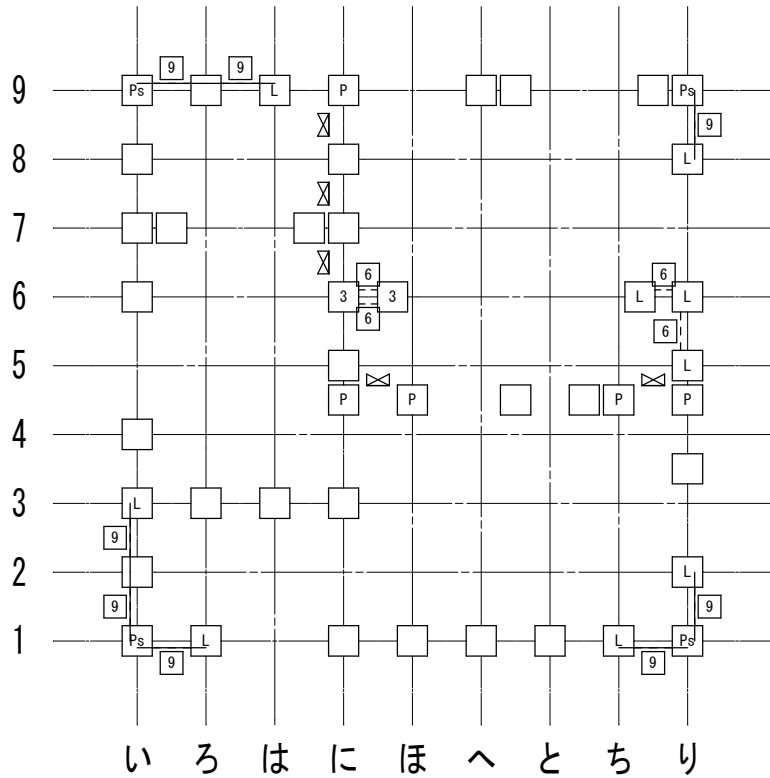
床面積表				単位	m ²
階		面積		計	
2	①	7.280 × 7.280	52.998400	53.00	
1	①	7.280 × 7.280	52.998400	53.00	

見付面積表				単位 m ²		
方向	階	面積		計	累計	
X	2	Ⓑ1	7.475 × 1.179	8.813025	25.52	25.52
		Ⓑ2	8.800 × 0.183	1.610400		
		Ⓑ3	8.860 × 1.703	15.088580		
	1	Ⓐ1	7.475 × 0.863	6.450925	21.01	46.53
		Ⓐ2	(8.682 + 7.475) × 0.242 ÷ 2.0	1.954997		
		Ⓐ3	7.475 × 1.686	12.602850		
Y	2	Ⓑ1	7.475 × 0.875	6.540625	21.45	21.45
		Ⓑ2	9.967 × 2.990 ÷ 2.0	14.900665		
	1	Ⓐ1	7.475 × 0.894	6.682650	20.98	42.43
		Ⓐ2	7.880 × 0.056	0.441280		
		Ⓐ3	7.940 × 0.169	1.341860		
		Ⓐ4	7.475 × 1.673	12.505675		





1 階柱壁伏図



2 階柱壁伏図

床・小屋梁の継手・仕口判定表								
階	方向	通り	耐力壁線間距離	平均存在床倍率	単位 m			
					床・小屋梁の継手・仕口			
					必要接合部倍率	継手・仕口	存在接合部倍率	判定
2	X	1-4.5	3.185	0.700	0.700	J1	1.900	OK
		4.5-6	1.365	1.500	0.700	J1	1.900	OK
		6-9	2.730	1.500	0.758	J1	1.900	OK
	Y	い-に	2.730	0.700	0.700	J1	1.900	OK
1	X	に-り	4.550	1.500	1.263	J1	1.900	OK
		1-3	1.820	0.937	0.700	J1	1.900	OK
		3-6	2.730	3.000	0.700	J1	1.900	OK
	Y	6-9	2.730	3.000	0.700	J1	1.900	OK
		い-ほ	3.640	2.250	0.700	J1	1.900	OK
		ほ-り	3.640	2.625	0.700	J1	1.900	OK

凡例					
記号	壁の構造 (1) 壁の構造 (2)		筋かいの構造		倍率
W4	☒		木材45×90たすき掛	4.00	4.00
W6	6	J A S 構造用合板	2.50		2.50
*W9	9	ダイライト	2.50		2.50

*は任意の仕様であることを示しています。

接合部凡例				*接合部凡例はユーザ設定されたものです。	
記号	仕様		N	倍率	
(い)		短ほぞ差し、かすがい打ち	0.00		
(ろ)	N	長ほぞ差し込み栓打ち		0.70	
(ろ)	L	L字型金物	0.65	0.70	
(は)	V	V字型金物	1.00	1.00	
(は)	T	T字型金物		1.00	
(に)	P	羽子板 ^ㇿ ルト	1.40	1.40	
(に)	I	短冊金物		1.40	
(ほ)	Ps	羽子板 ^ㇿ ルト+スクリュー釘50	1.60	1.60	
(ほ)	Is	短冊金物+スクリュー釘50		1.60	
(へ)	2	10KN用引き寄せ金物	1.80	1.80	
(と)	3	15KN用引き寄せ金物	2.80	2.80	
(ち)	4	20KN用引き寄せ金物	3.70	3.70	
(り)	5	25KN用引き寄せ金物	4.70	4.70	
(ぬ)	32	15KN用引き寄せ金物×2	5.60	5.60	
(る)	J1	腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板 ^ㇿ ルト、短冊金物		1.90	
(を)	J2	腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板 ^ㇿ ルト、短冊金物×2		3.00	

筋かいの種類に応じた筋かいの端部の接合部の仕様		
	筋かいの種類	接合部の仕様（構造方法）
イ	鉄筋φ9	柱又は横架材を貫通し、三角座金を介してナット締め、又は鋼板添え板を用い鋼板を柱及び横架材にCN90, 8本平打ち
ロ	筋かい:15×90	柱・横架材を欠き込み、柱・横架材双方に対してN65, 5本平打ち
ハ	筋かい:30×90	鋼板添え板t=1.6mmを筋かいに対してボルトφ12及びCN65, 3本平打ち、柱に対してCN65, 3本平打ち、横架材に対してCN65, 4本平打ち。筋かいプレートBP同等品
ニ	筋かい:45×90	鋼板添え板t=2.3mmを筋かいに対してボルトφ12及びスクリュー釘φ4.5L50, 7本平打ち、柱及び横架材に対してスクリュー釘φ4.5L50, 5本平打ち。筋かいプレートBP-2同等品
ホ	筋かい:90×90	柱又は横架材にボルトφ12mmを用いて一面剪断接合

胴差と通し柱の接合部の仕様		
	胴差と通し柱の条件	仕口
T1	通し柱の片側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、羽子板ボルト、かね折り金物又は同等以上の仕口
T2	通し柱の両側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、短冊金物又は、同等以上の仕口で胴差相互を緊結
T3	通し柱と胴差の接合部の近くに90×90以上の筋かいが来る場合(通し柱が建物の出隅にあるか、筋かい壁が外壁と直交して接する場合)	胴差を通し柱に、15KN用引き寄せ金物を水平に用いて緊結

